



## ブラジル三菱東京UFJ銀行 DAILY MARKET REPORT

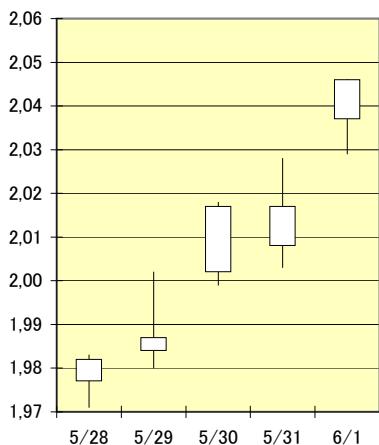
株式会社

## 1. Market Rate

			5月28日	5月29日	5月30日	5月31日	6月1日	Net Chg
Forex	USD/REAL	Spot	1,9820	1,9870	2,0170	2,0170	2,0460	+0,0290
	USD/YEN	Spot	79,54	79,51	79,12	78,38	77,97	-0,40
	EURO/USD	Spot	1,2540	1,2498	1,2372	1,2361	1,2435	+0,0074
	REAL/YEN	Spot	40,13	40,02	39,22	38,86	38,11	-0,75
Swap	Dollar Clean	6MTH(p.a.)	2,09	2,10	1,92	1,96	1,99	+0,02
		1Year(p.a.)	2,36	2,43	2,35	2,33	2,40	+0,07
	Real Interest	6MTH(p.a.)	8,10	8,00	7,99	7,93	7,91	-0,02
		1Year(p.a.)	8,14	8,01	7,99	7,92	7,88	-0,04
Stock	Bovespa		55.212,69	54.633,06	53.797,91	54.490,41	53.402,90	-1.087,51
	EMBI+(bp)		229,00	229,00	236,00	243,00	249,00	+6,00
Bond	Global 40		130,500	130,750	130,750	130,800	130,700	-0,1000

\* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインデイケーションです。実際のレート提示は弊行担当アカウント・オフィサーまでお問い合わせ下さい。

直近5営業日U\$/R\$推移



## [来週の予想相場レンジ]

1.97～2.10

## [来週の為替市場注目点]

今週のレアルは週を通じて売られる展開となった。背景にあるのは勿論”欧洲危機”だが、ギリシャに端を発した”危機”が他国に伝播してきている。欧洲ではスペイン、イタリアの動向に注目が集まり、米指標の悪化もあって米国の動向からも目を離せなくなってきた。今般のCOPOMでの利下げを経て市場は次回以降の更なる利下げを織り込み始めている。一方でブラジル景気の鈍化も鮮明で政府・中銀が主張する通りインフレが問題とななければ伯金利先安観が強まる中、政府の輸出促進方針と相俟って更なるレアル安も許容されよう。但し中銀はボラティリティーを嫌っており、”急激”なリアル安進行には介入が予想され、相場展開をじっくりと見守る必要があろう。

- 伯インフレ指数:IGP-DI(6日)、IPCA(6日)  
伯Fipe月次消費者物価指数(4日)、PMIサービス業(5日)、  
伯CNI生産設備稼働率(5日)、自動車生産(6日)、  
伯COPOM金融政策委員会議事録(8日)
- 米製造業受注指数(4日)、ISM非製造業景況指数(5日)、  
米地区連銀経済報告(6日)、消費者信用残高(7日)、  
米貿易収支、卸売在庫・売上(8日)

## 2. 市況、トピックス ( As of jun-01 )

## 【欧洲発の悪材料に加えて伯・米経済指標の悪化を受けたリスク回避の動きからレアルは週を通じて下落する展開】

今週の為替相場はU\$1=R\$1.9770で寄り付いた。週初は米国が祝日で市場参加者が限られる中、静かな値動きとなった。資本不足に陥ったスペインの銀行救済を巡りスペイン政府の借り入れコストの大幅増加懸念の高まりなどを背景に米大手格付け機関が同国格付けを引き下げたことを受けてユーロドルが急落するとレアルも売られる展開となり2.0000を下抜け下落した。週央にかけてはユーロ圏の景況指数の悪化や不況なイタリアの国債入札などギリシャの信用不安が他の欧州諸国にも影響を及ぼし始めていることが嫌気されユーロが下げ幅を拡大。ユーロ圏債務危機の深刻化を受けて市場全体でリスク回避の動きが強まる中、レアルは株・コモディティの下落を伴って続落した。30日夕刻には市場の注目であったCOPOM(金融政策委員会)の結果が発表され、ブラジル中銀は市場の予想通り50bpの利下げを実施し政策金利(SELIC)は史上最低となる8.50%となった。同時に発表された中銀のコメントからは中銀のインフレに対する警戒感が希薄なことが確認され、市場は次回7月のCOPOMでの追加利下げを織り込む格好で先物金利が大幅に下落した。レアルも売り進まれ2.0300に迫るも同水準では中銀によるドル売り介入警戒感も相応にあり、レアルの下げは小休止した。本日の為替相場はU\$1=R\$2.0370でオープン。寄付きと共に発表された伯第1四半期GDPが予想を大幅に下回ったことが嫌気され、レアルは寄付きから大きく売り込まれた。続けて発表された5月米雇用統計で非農業部門雇用者数が予想を下回ったことに加えて失業率も上昇しており米雇用環境の悪化が確認されるとリスク回避の動きが強まり、レアルは2.0400を下抜け下落した。市場では米指標の悪化を受けて一部で追加の量的緩和(QE3)の可能性を指摘する声が聞かれた。指標発表直後のレアル売りが一巡しや買戻しが強まる中、レアルは一旦2.02台後半まで戻したが、米指標の悪化を受けたリスク回避の流れは止まらず、全世界的に株が全面安となりレアルも午後にかけて再びじりじりと値を崩す展開となった。引け間際に本日のレアル安値となるU\$1=R\$2.0460を付け、結局U\$1=R\$2.0460で越週した。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したものですが、その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。なお、当資料の無断複製、複写、転送はご遠慮ください。当方の都合で、本レポートの全部または一部を予告なしに変更することがありますので、予めご了承ください。